

木の言い分 ①9

■野田藤の木霊

又また、木霊の話です。私は、ノダフジの木霊によって命が救われたと思われる不思議な体験をしました。古事記に出ている藤蔓の魔力の話を変えながら体験を書きます。

古事記は我国で書かれた最初の歴史書だと言われていいますが、そこには、藤蔓の魔力の話があります。或る神の姫神に大勢の男神が言い寄りますが、全員が振られます。ここに兄弟神がおられ、兄神は振られたので弟神に或る賭を持ちかけてけしかけます。弟神は母親に相談したところ、母親は藤蔓を取ってきて、一夜のうちに衣服や弓矢を作りました。それらを弟神に与えて姫神の家に行かせたところ、衣服や弓矢に藤の花が咲き、藤蔓の魔力によって晴れて結婚することができて一子まで儲けたとあります。魔力のことも詳しく書かれていますが、ここでは書けません。

藤の木霊、藤の魔力のことは古事記以外で読んだことがありませんでした。ところが私は、藤の木霊に助けられたのです。私は、大阪市福島区内で藤棚の花を咲かせようと懸命に頑張っておられる人達の仲間に入って、平成19年の早春から汗を流しています。

福島区は、平成7年度に野田藤を区の花と定め、公園や学校に藤棚を作りました。植えた年は咲いてもその後は咲かない年が続きました。そこで区民が一丸となって花を咲かせる運動を進めるために平成18年に「のだふじの会」を作りました。私も会に入れてもらい、樹木医仲間の足利フラワーパーク園長に福島区内へ来てもらって、花を咲かせる技術を教わりました。花が咲くまで5年は掛かるという藤の手入れを区民の人達と取り組んで3年になった今年の春、支援してきた小学校の藤棚で待望の花が咲きました。

6月下旬にその小学校で夏の剪定の研修会を開きました。1時間の座学と藤棚での実習を指導しました。午後はその小学校の近くの病院と他の小学校2校で剪定することになり私は病院の藤棚を診た後、次の小学校にタクシーで行くために病院玄関前のタクシー乗り場に向かいました。玄関前の丸柱に左手を付いて深呼吸をしたのは覚えています。

フト気が付くと顔の上に白衣の人達3~4人が見えました。慌てて起き上がろうとしましたが、白衣の人に止められました。救急治療室に運び込まれ、種々の検査の後、絶対安静、即入院でした。その病院には、心臓外科の権威が居られました。その先生が言われました。「よくまア、この体で仕事できたネ。この心臓でよく生きてこられたネ。」

私は、藤に招かれたのだ。藤の木霊が大動脈弁狭窄症を治してくれたんだ。命を救ってくれたんだ。古事記のとおり藤の魔力は、人を幸せにしてくれるんだ。いや、いかなる樹木も不思議な魔力を持っているんだ、と思いました。

樹木医 澤田 清

(NPOおおさか緑と樹木の診断協会顧問)